

# 乙訓保健所管内の感染症発生動向調査による週報 (小児科定点、インフルエンザ定点)

第 20 週 平成29年5月15日 ~ 平成29年5月21日

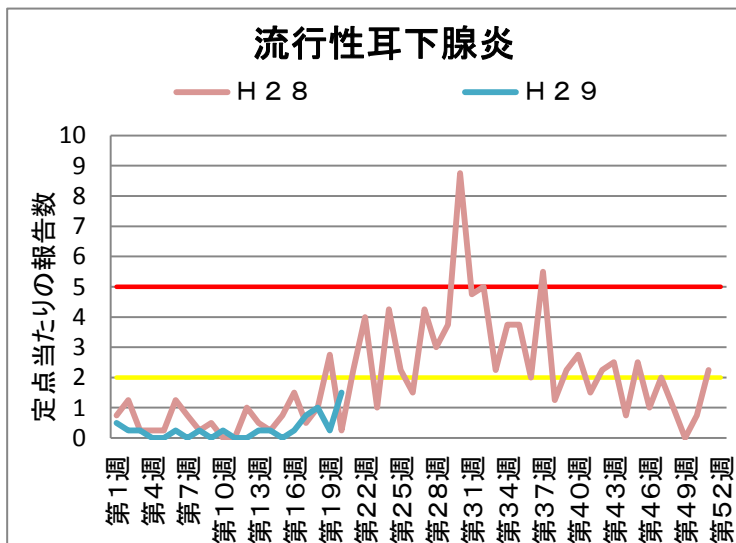
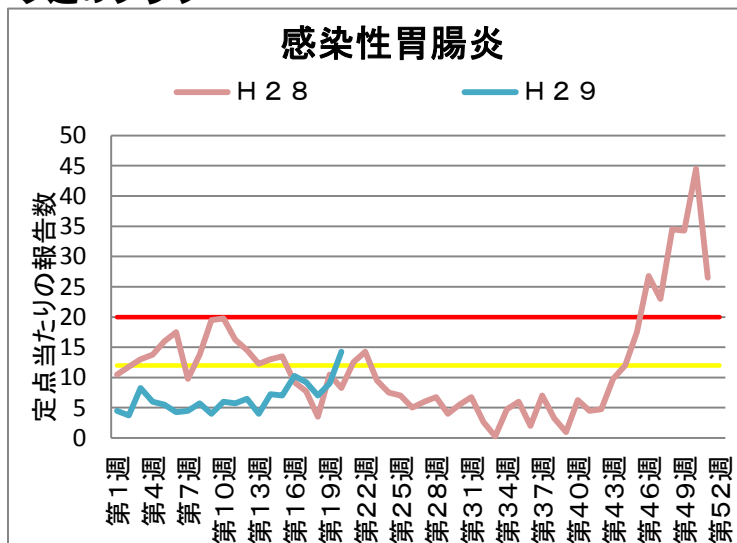
## 今週のコメント

○ 感染性胃腸炎の報告が増加しています(定点あたり14.25)。気温が30度を超える暑い日もあり、食中毒にも注意が必要です。「家庭でできる食中毒予防のポイント(厚生労働省)」をご覧ください。

<http://www.mhlw.go.jp/topics/syokuchu/dl/point0709.pdf>

○ 流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)もやや増加しています(定点あたり1.5)。流行性耳下腺炎は、ムンプスウイルスの感染を原因として発症する感染症です。2~3週間の潜伏期を経て発症し、片側または両側の耳下腺の腫脹、疼痛、発熱を主症状とします。感染経路は接触感染・飛沫感染ですが、感染しても症状の現れない不顕性感染が30~35%あるといわれています。発症しても通常は1~2週間で軽快する疾患ですが、無菌性髄膜炎、脳炎、難聴、睇炎などの合併症を起こす場合があります。効果的な予防方法は、ワクチン接種です。

## 今週のグラフ



\* — 流行警報基準値です — 警報継続基準値です

## 今週の報告状況

疾病名	定点当たりの報告数	疾病名	定点当たりの報告数
インフルエンザ	0.43	手足口病	0.75
RSウイルス感染症	-	伝染性紅斑	-
咽頭結膜熱	0.75	突発性発しん	2
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.5	百日咳	-
感染性胃腸炎	14.25	ヘルパンギーナ	-
水痘	0.5	流行性耳下腺炎	1.5

定点当たりの報告数 = 1週間の報告件数総数 / 定点数

\* 乙訓管内 インフルエンザ定点数：7箇所、小児科定点数（インフルエンザ以外の疾病）：4箇所

## 参考資料等

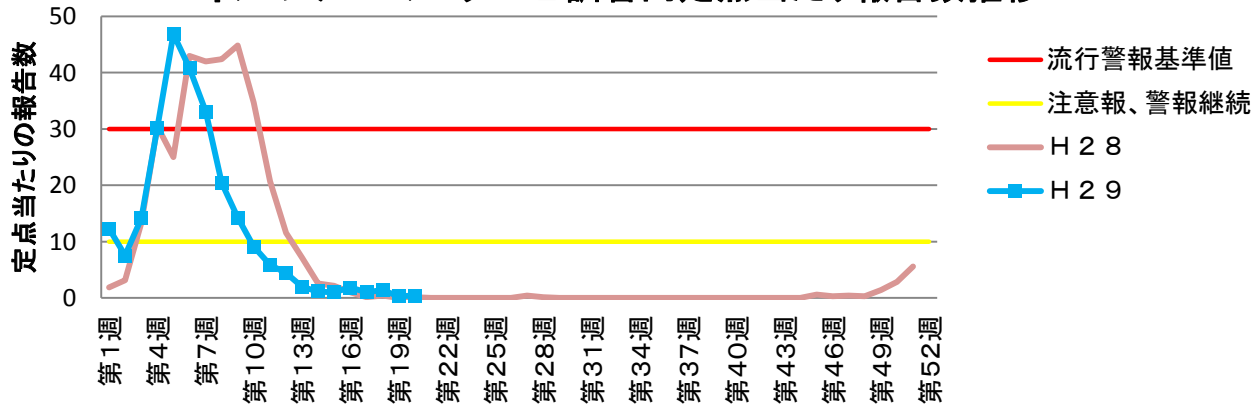
報告週対応表

警報・注意報基準値の説明

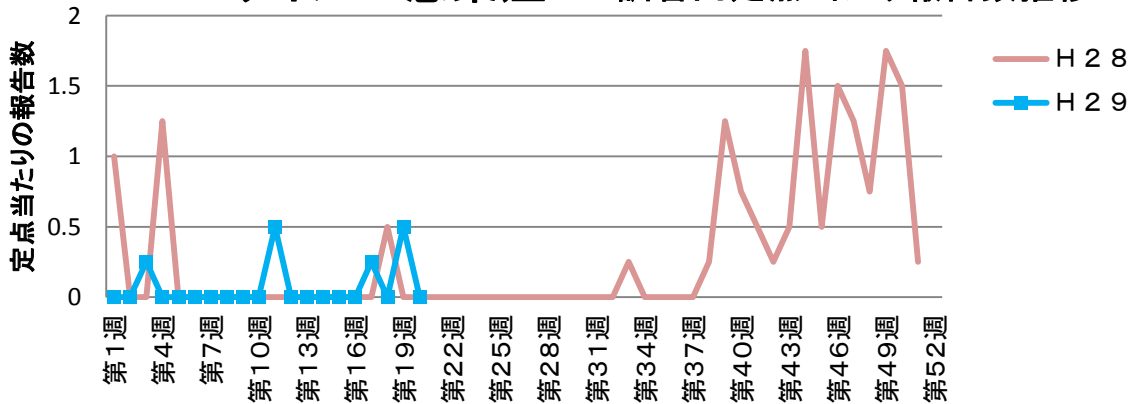
<http://www.nih.go.jp/niid/ja/calendar.html>

<http://idsc.nih.go.jp/disease/influenza/inf-keiho/guide03.html>

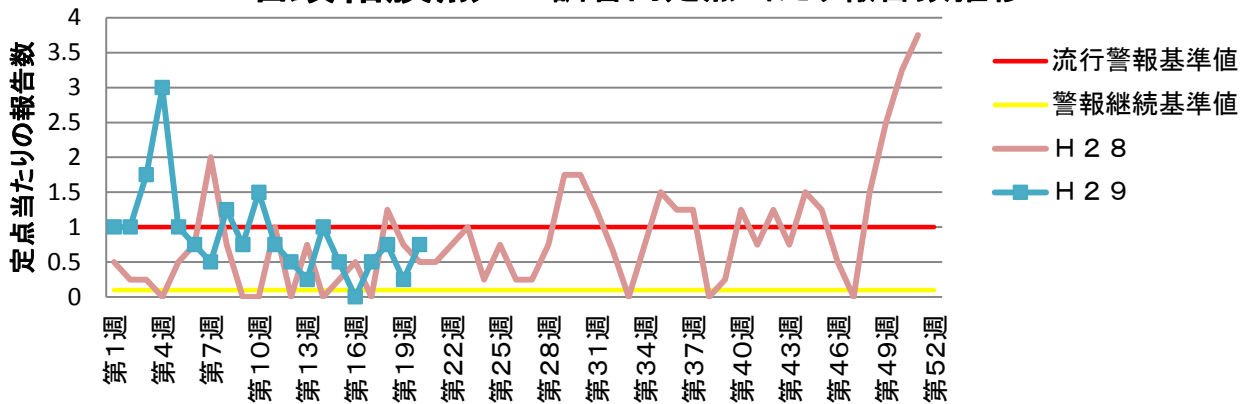
## インフルエンザ 乙訓管内定点当たり報告数推移



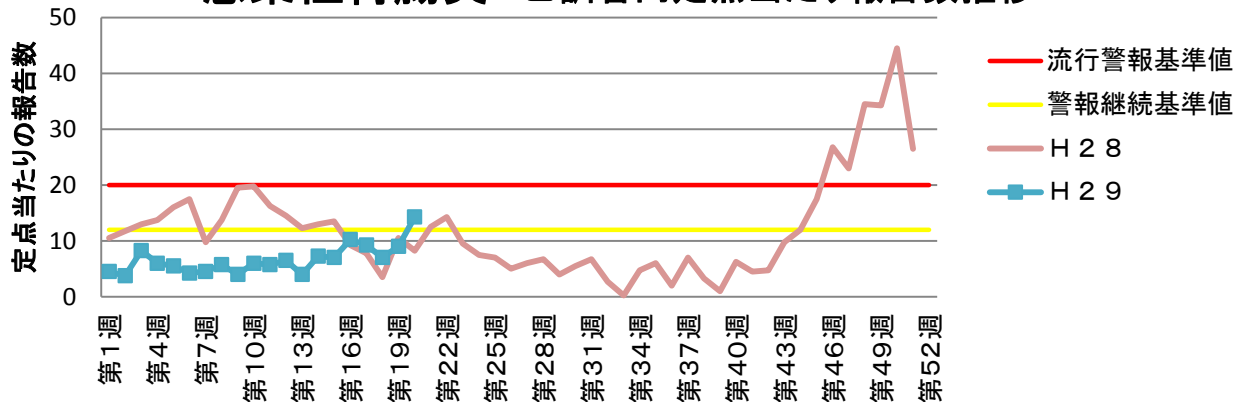
## RSウイルス感染症 乙訓管内定点当たり報告数推移



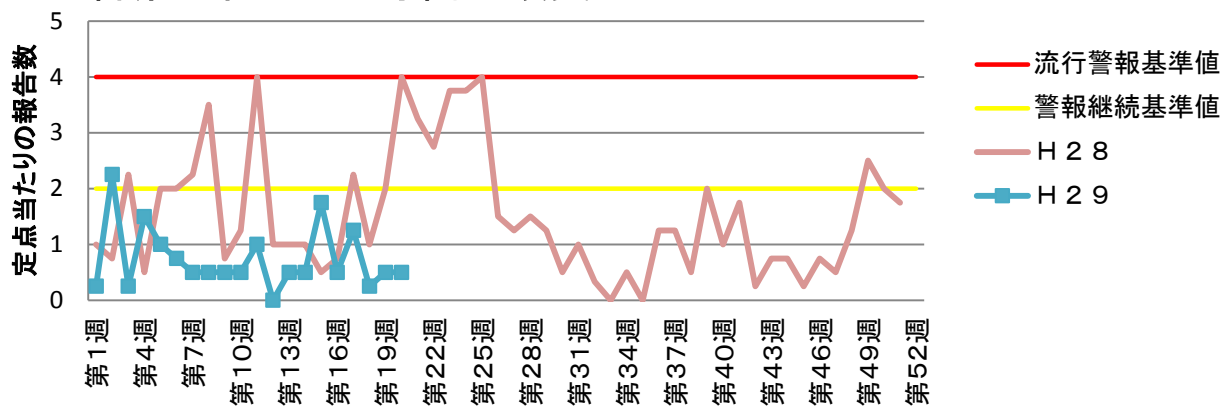
## 咽頭結膜熱 乙訓管内定点当たり報告数推移



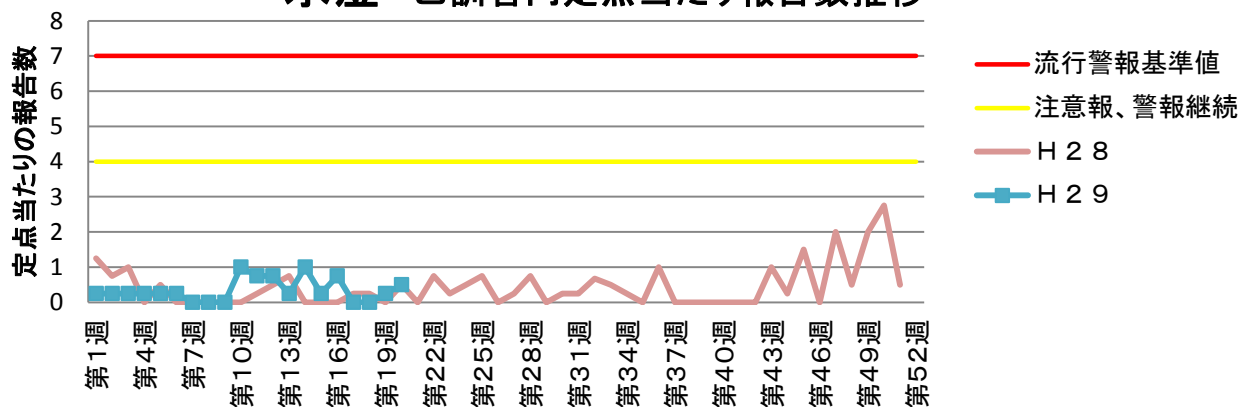
## 感染性胃腸炎 乙訓管内定点当たり報告数推移



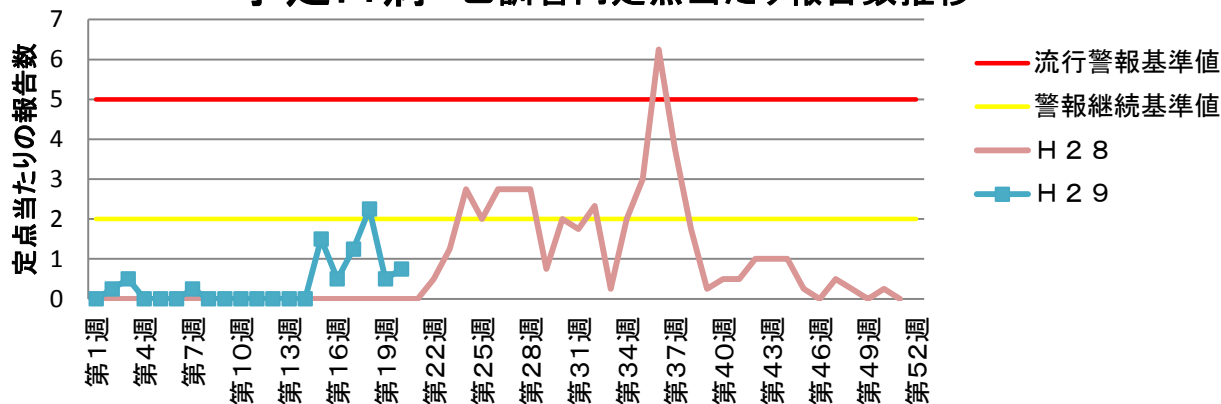
### A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 乙訓管内定点当たり報告数推移



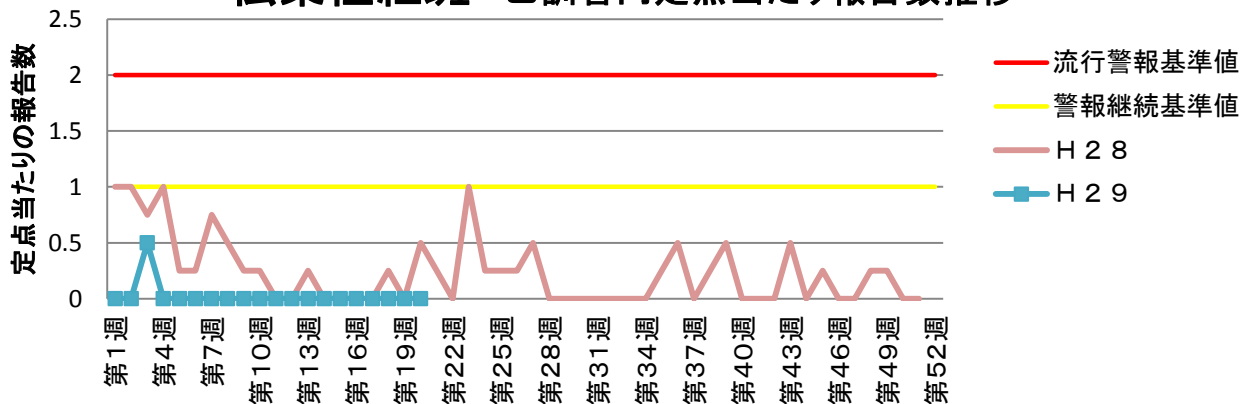
### 水痘 乙訓管内定点当たり報告数推移



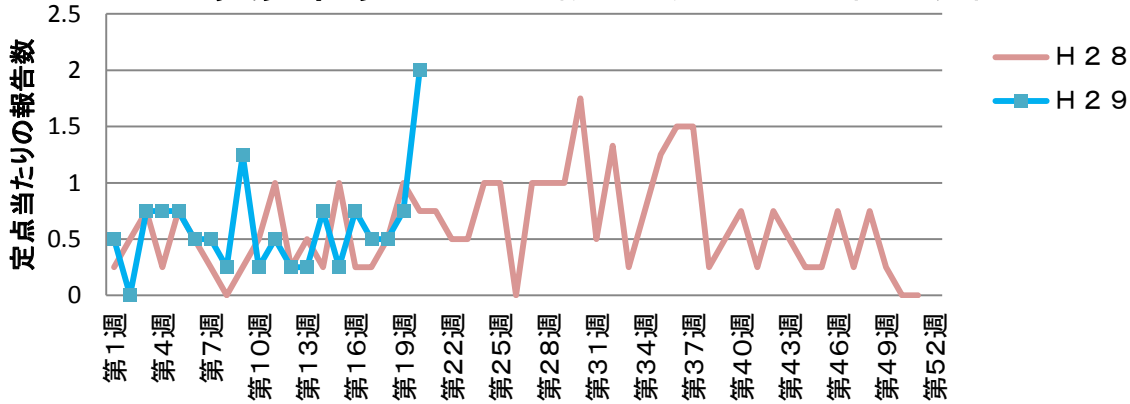
### 手足口病 乙訓管内定点当たり報告数推移



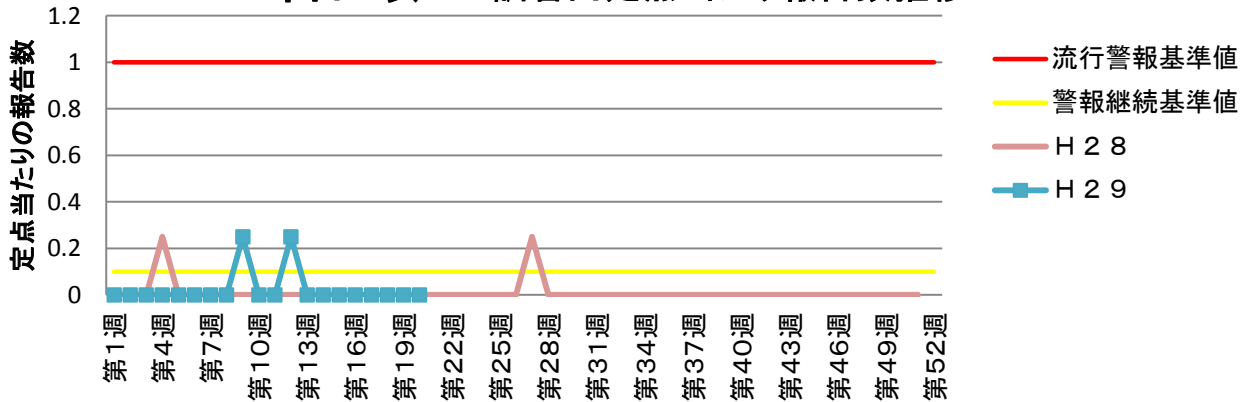
### 伝染性紅斑 乙訓管内定点当たり報告数推移



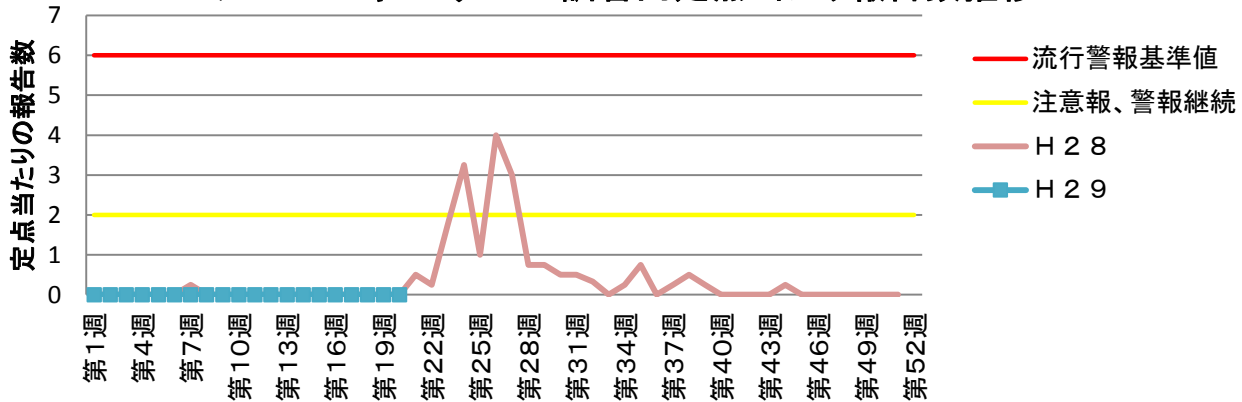
### 突発性発しん 乙訓管内定点当たり報告数推移



### 百日咳 乙訓管内定点当たり報告数推移



### ヘルパンギーナ 乙訓管内定点当たり報告数推移



### 流行性耳下腺炎 乙訓管内定点当たり報告数推移

